



懐かしの旧校舎・正面玄関

同窓会報 興学

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局

創立五十周年を
迎える小国高校

会長 仁科光悦



同窓会員の皆様には、
お元気でお過ごしのことと
お喜び申し上げます。

本校は、ご承知のように
昭和二十三年に定時制高等
学校として、現在の小国小
学校に開校してから、今年
で五十周年という記念すべ
き年を迎えることになりま
した。

同窓生も五千三百名を越
え、小国町内はもちろん全
国の各地において、それぞ
れ社会の第一線でご活躍さ
れておりますことは、誠に
喜ばしい限りでございます。
平成七年に、学校関係者
はもとより、同窓会、PT
A、そして体育文化後援会

と力を合わせ、創立五十周
年記念事業実行委員会を結
成し、記念事業の成功に向
けて募金活動をはじめ、記
念誌の発行や各種事業等に
鋭意努力している最中でご
ざいます。

同窓会員の

絶大なる

ご支援とご協力を

記念事業としては、前号
でもお知らせしましたが、
実行委員会ではいろいろと話
し合った結果、

- ①グラウンドの土手整備
- ②学校の標識塔
- ③照明灯三基

を建立することに決定し
たところです。

これらの記念事業を立派
に完成させることと、十月
二十四日に行なわれる記念
式典の成功に向けて、更に
は、我々母校の発展のため
にぜひ、同窓会員の皆さん
の絶大なるご支援とご協力
をいただきますよう、心か
らお願いを申し上げます。第
一です。

小国高校五十年のあゆみ

昭和二十三年定時制高校として発足

年度・月	歴代学校長	生徒会長	学	校	沿	革	卒	業	生	の	足	跡
四十九・四	第9代校長 山村 俊一	河村 広治					陸上 県高校総体 一五〇〇M 一位 渡部敏雄 秋地区大会 男子団体優勝 スキー インターハイ出場(斉藤幸雄、佐藤国武、佐藤和芳、木村厚子、安達順子、新野陽子、舟山由美子、舟山真知子) 団体出場 斉藤幸雄					
五十・四	舟山 好彦						陸上 東北大会出場(長井弘美、山口 誠、長浜ひろ子) 一一〇JH 四位 長井弘美 春地区大会 男子団体 優勝 個人総合優勝 和田 尚 全種目優勝 和田 尚					
五十一・四	塚原 豊		老朽校舎改築決まる 老朽校舎改築地鎮祭				陸上 県高校総体 一一〇JH 優勝 長井弘美 三段跳び準優勝 山口 誠 東北大会出場 四〇〇MR、一六〇〇MR(長井弘美、山口 誠、伊藤広行、渡部 仁) 一一〇JH 準優勝 長井弘美 三段跳び 準優勝 山口 誠 団体出場 一一〇H 五位 長井弘美 スキー 県高校総体 軽量級個人 準優勝 伊藤喜光 体操 春地区大会 個人床・跳馬 優勝 島貫益美 スキー 県高校総体 純ジャンプ 準優勝 遠藤貞治(今野) 団体出場 県大会 Cクラス 優秀校 東北大会出場					
五十二・四	第10代校長 縮 二郎	川村 吉弥	老朽校舎改築落成(普通教室、図書室、音楽室、管理室)				陸上 東北大会出場(鈴木金広、伊藤嘉奈子、高橋ひとみ) スキー 地区大会 純ジャンプ複合優勝 安達広樹 県高校総体 準ジャンプ複合準優勝 遠藤貞治 インターハイ出場(安達広喜、遠藤貞治、木村利昭、遠藤ゆき子、遠藤保江、金子みどり) 合唱 県大会 Cクラス 優秀校 東北大会出場					
五十三・四	井上千嘉男		前庭、中庭、テニスコート造成 自転車置き場新築 創立三〇周年・校舎落成記念式典挙行 同窓生記念講演 講師 小嶋豊郎氏(二十五卒)				陸上 県高校総体 走高飛び 優勝 小関浩明 東北大会出場					
五十四・四	小野 泰浩		スキー インターハイ出場 舟山植彦 NHK蔵王ジャンプ大会 八位 佐藤一見 複合十六位 舟山植彦 佐藤一見 十三位 舟山植彦				柔道 県一年生大会 中量級優勝 大河原正敏 体操 春地区大会 個人総合優勝 今野一之 県高校総体 跳馬 準優勝 今野一之					
五十五・四	第11代校長 関原 徹	山口 光男					体操 秋地区大会 個人床優勝 木村寿四 スキー 県高校総体 複合 準優勝 舟山植彦 純ジャンプ 準優勝 佐藤一見 団体出場 純ジャンプ 八位 佐藤一見 国体出場 純ジャンプ 八位 佐藤一見 東北大会 純ジャンプ 二十位 佐藤一見 準優勝 佐藤一見					

五十六・四	金秀一	陸上 野球 県新人大会 八〇〇M 優勝一五〇〇M 準優勝 大谷弘幸 甲子園予選山形大会 初の三回戦進出
五十七・三四	大久保勝己	寄宿舍「興学寮」閉寮となる スキー インターハイ出場（佐藤一見、佐藤利行） 県総体 少年の部 佐藤一見 全日本選手権大会 十二位 佐藤一見
五十八・四	本間 潔	興学会館開設となる 創立三五周年及び興学会館開設記念式典挙行 同窓生記念講演 佐藤敏弘氏（四十九年卒） （三遊亭金太郎師匠） 新装興学会館にて宿泊研修開始 陸上 秋地区新人大会 一五〇〇M八〇〇M 優勝 大谷弘幸 スキー ベーター駅伝 優勝 野球 春地区大会 準優勝 県大会 対鶴商学園 ○対三 レスリング 菅野幸一先生 国体 三位入賞
五十九・四	渡辺 重行	陸上 東北大会 四〇〇MH 本間義朗 南東北大会出場 一〇〇M 仁科悦子 船山智子 クロカン（遠藤ちよ子、仁科悦子、伊藤美代子、鈴木ひろみ） 井上教裕、遠藤ちよ子・女子リレー（遠藤ちよ子、仁科悦子、伊藤美代子、鈴木ひろみ） スキー インターハイ出場 女子リレー（遠藤ちよ子、仁科悦子、佐藤由佳、佐藤由香里） 東北大会出場 スラローム女子 藤田敬子
六十・四	河内 聡	生涯学習開放講座開校 陸上 地区大会一〇〇MH 優勝 仁科悦子 東北高校陸上出場 三〇〇MCS 井上教裕 三〇〇〇M 十五位 遠藤ちよ子 一〇〇M 五位 仁科悦子 インターハイ出場 仁科悦子
六十一・四	貝沼 繁	同窓生記念講演 講師 田村 浩氏（三十六年卒） 陸上 春地区大会 棒高跳 優勝 東 和則 県高校総体 棒高跳 優勝 東 和則 四〇〇MH 準優勝 今野和夫 柔道 春地区大会 団体優勝 秋地区大会 個人優勝 重量級 与板秀和 スキー 県高校総体 アルペン女子 回転 太田信子 東北大会出場 クロスカントリースキー女子 女子一〇K 宇津木静子 齊藤紀子 東北大会出場 男子 男子十五K 中津川典広 井上正秋 インターハイ出場 男子クロスカントリースキーレール 第五位 インターハイ出場（安部康之、井上正秋、今 豊、清野典雅） ベイター駅伝 スキーの部 優勝 五連覇
六十二・四	金 毅	同窓生記念講演 講師 鈴木春祥氏（三十五年卒） 陸上 春地区大会 三〇〇MSC 優勝 八幡博之 走高跳 優勝 加藤憲洋 県高校総体 棒高跳 三位 東 和則 インターハイ 棒高跳 八位 佐藤敏弘 東北大会出場 四〇〇M 準決勝 渡部義輝 東北大会出場 ハンマー投げ 栗田博己 東北大会出場
六十三・四	第13代校長 長岡 吉彦	理科・家庭科棟落成 体育館落成 竣工記念式典挙行 旧体育館・木造教室解体 同窓生記念講演 講師 藤田康夫氏（三十年卒） 体育館落成こけら落とし （左沢高等学校剣道部・小国高等学校友好試合） 斉藤 学 左沢高校剣道部監督による講演 陸上 春地区大会 棒高跳 優勝 佐藤俊博 県高校総体 棒高跳 準優勝 佐藤俊博 東北大会 七位 佐藤俊博 県高校駅伝 第五位（中津川典広、渡部宏行、三須清明、安部康行、佐藤明宏、舟山直幸） 剣道 春地区大会 女子団体 準優勝 個人 準優勝 志田夕子 県総体出場 スキー 県高校総体 男子リレー 五位 インターハイ出場（安部康行、舟山直幸、清野典雅、小嶋健人） 男子一五K インターハイ出場 安部康之、舟山直幸 女子五K十K 東北大会出場 小関恵美子、渡辺祐子

年度・月	歴代学校長	生徒会長	学 校 沿 革	卒 業 生 の 足 跡
平成元年四		飯沢 和広	剣道 県新人大会 槍投 優勝 舟山和則 地区大会 女子団体 優勝 女子個人 準優勝 志田夕子 山形県総合体育大会 総合優勝 踏査の部 優勝 縦走の部 優勝 山岳 山形県総合体育大会 総合優勝 踏査の部 優勝 縦走の部 優勝	陸上 県高校総体 円盤投四位 羽田 豊 ハナマエ投 四位 佐藤克彦 槍投四位 舟山和明 四〇〇MH 六位 山田幸司 以上 東北大会出場
平成二年四		佐藤 明広	山岳 県総体新人 一年生大会 優勝(佐藤輝彦、今 政章、和田 慎) 山形県総合体育大会 総合優勝 縦走・踏査優勝(新野周一、今 政章、佐藤輝彦) スキー 県高校総体 クロスカン トリー 男子15K(F) 舟山直幸 女子5K(K) 10K(F) 齊藤信子 女子リレー3位(齊藤信子、小関恵美子、渡辺祐子) 10K(F) 小関恵美子(以上4名インターハイ出場)	陸上 県高校総体 槍投 優勝 舟山和則 東北大会出場 ハンマー投 4位 安井 健 東北大会出場 陸上 県高校総体 槍投 優勝 舟山和則 東北大会出場
平成三年四	第14代校長 豊島 圭吾	原田 裕司	本年度入学生より新制服となる 同窓生記念講演 講師 塚田 信氏(30年卒) 美術 地区高校美術大会 特選 県高校美術展 奨励賞 今盛絵理子 山岳 県高校総体 県選抜チーム 総合優勝(寒河江 純、佐藤輝彦) 小国高校チーム男子総合優勝(和田 慎、今 豊史、今 政章) 小国高校チーム女子踏査3位(齊藤奈美、鈴木樹美枝、藤谷文香) スキー 県高校総体 クロスカン トリー 男子15K(F) 舟山貴明、鈴木樹人 インターハイ出場 女子10K(F) 佐藤敦子、舟山優子 インターハイ出場	陸上 春地区大会 槍投 優勝 前田章仁 県高校総体 砲丸投 6位 鈴木 誠 東北大会出場 南東北新人大会 四〇〇M 優勝 木村玲子 砲丸投 6位 鈴木 誠 東北大会出場
平成四年四		舟山 俊哉	小国高を語る会開催 山形県べにばな国体開催(小国高校山岳競技参加) スキー 県高校総体 クロスカン トリー 男子リレー 5位 インターハイ出場(舟山貴明、伊藤直樹、鈴木樹人、佐藤 敦) 山岳 べにばな国体 小国高校 完全総合優勝 男子(和田 慎、今 豊史、今 政章、寒河江 純、佐藤輝彦) 女子(齊藤奈美、鈴木樹美枝、藤谷文香)	陸上 地区大会 四〇〇M 優勝 今 貴臣 県高校総体 砲丸投 4位 鈴木 誠 東北大会出場 バレーボール 地区大会 準優勝 新体操 地区大会 準優勝
平成五年四	第15代校長 齊藤 貞夫	木村 忍	グラウンドに国旗掲揚台1基建立 県高校総体 男子 四〇〇MH 5位 今 貴臣 東北大会出場 秋季地区大会 優勝 女子 走り高跳 5位 和田千春 東北大会出場 南東北大会出場(五〇〇MH 5位 伊藤直樹、棒高跳 遠藤知広) スキー 県高校スキー大会 クロスカン トリー 男子15K(F) 12位 鈴木樹人 13位 佐藤 剛 インターハイ、東北大会出場 10K(K) 13位 舟山貴明 21位 伊藤直樹 インターハイ出場 女子10K(F) 14位 舟山綾子 15位 鈴木加奈子 東北大会出場 県総合スキー大会 男子リレー 第5位	陸上 地区大会 四〇〇MH 優勝 伊藤直樹 ハンマー投 優勝 伊藤竜一 陸上 地区大会 走り高跳 5位 矢部善規 四〇〇MH 6位 吉田 光 三〇〇〇MW 6位 舟山幾子 秋季地区大会 五〇〇〇MW 7位 齊藤勝利 八位 松山亮輔 陸上 県高校新人大会 ハンマー投げ 優勝 木村芳浩 陸上 県高校総体 五〇〇〇MW 6位 松山亮輔(東北大会出場) 秋季地区大会 一五〇〇〇M 優勝 伊藤 純 円盤投げ 優勝 佐藤千秋 スキー 県高校スキー大会 アルペン 回転 10位 竹田友紀(東北大会出場)
平成六年四		志田 望	県高校総体 走り高跳 3位 和田千春 秋季地区大会 円盤投げ 3位 木村信彦 南東北大会出場 スキー 県高校スキー大会 クロスカン トリー 女子5K(C) 10K(F) 14位 鈴木加奈子 東北大会出場 男子15K(F) 31位 佐藤 剛 東北大会出場	陸上 地区大会 四〇〇MH 優勝 伊藤直樹 ハンマー投 優勝 伊藤竜一 陸上 地区大会 走り高跳 5位 矢部善規 四〇〇MH 6位 吉田 光 三〇〇〇MW 6位 舟山幾子 秋季地区大会 五〇〇〇MW 7位 齊藤勝利 八位 松山亮輔 陸上 県高校新人大会 ハンマー投げ 優勝 木村芳浩 陸上 県高校総体 五〇〇〇MW 6位 松山亮輔(東北大会出場) 秋季地区大会 一五〇〇〇M 優勝 伊藤 純 円盤投げ 優勝 佐藤千秋 スキー 県高校スキー大会 アルペン 回転 10位 竹田友紀(東北大会出場)
平成七年四		須貝 洋人	陸上 地区大会 四〇〇MH 優勝 伊藤直樹 ハンマー投 優勝 伊藤竜一 陸上 地区大会 走り高跳 5位 矢部善規 四〇〇MH 6位 吉田 光 三〇〇〇MW 6位 舟山幾子 秋季地区大会 五〇〇〇MW 7位 齊藤勝利 八位 松山亮輔 陸上 県高校新人大会 ハンマー投げ 優勝 木村芳浩 陸上 県高校総体 五〇〇〇MW 6位 松山亮輔(東北大会出場) 秋季地区大会 一五〇〇〇M 優勝 伊藤 純 円盤投げ 優勝 佐藤千秋 スキー 県高校スキー大会 アルペン 回転 10位 竹田友紀(東北大会出場)	陸上 地区大会 四〇〇MH 優勝 伊藤直樹 ハンマー投 優勝 伊藤竜一 陸上 地区大会 走り高跳 5位 矢部善規 四〇〇MH 6位 吉田 光 三〇〇〇MW 6位 舟山幾子 秋季地区大会 五〇〇〇MW 7位 齊藤勝利 八位 松山亮輔 陸上 県高校新人大会 ハンマー投げ 優勝 木村芳浩 陸上 県高校総体 五〇〇〇MW 6位 松山亮輔(東北大会出場) 秋季地区大会 一五〇〇〇M 優勝 伊藤 純 円盤投げ 優勝 佐藤千秋 スキー 県高校スキー大会 アルペン 回転 10位 竹田友紀(東北大会出場)
平成八年四	第16代校長 小松 登	志田 朗	全日制普通科80名の定員となる グラウンド全面改修となる 修学旅行沖縄へ	陸上 県高校総体 五〇〇〇MW 6位 松山亮輔(東北大会出場) 秋季地区大会 一五〇〇〇M 優勝 伊藤 純 円盤投げ 優勝 佐藤千秋 スキー 県高校スキー大会 アルペン 回転 10位 竹田友紀(東北大会出場)

創立五十周年を迎えるにあたり

校長 小 松 登



「山高く人和む」「水清く風青き」「青春の夢かおる」わがふるさと、これは校歌の一節ですが、今も昔も変わりなく、四季折々の豊かな自然環境に恵まれたこのふるさと、この学舎で、ともに学び、汗を流し、友と語らい青春時代を謳歌した五三六一名の卒業生の皆さん、そして、後の混沌とした社会情勢のさ中、昭和二十三年の本校草創期以来、絶大なご尽力をいただきました町ご当局、町民各位として教育関係者多くの方々に対し、創立五十周年の記

念すべき年にあたり、心からお喜びを申し上げます。この間、定時制から全日制課程へ、数度の学科改編、新增改築等による教育環境の整備を図りながら今日に至っております。学校規模については、社会の変化に伴う少子化が続き、一時の全校生約六〇〇名から二〇〇名を割る状況になっておりますが、本校五十年の歴史と伝統の上に、教育改革の動向を見据えながら、一層地域に根ざした高校づくりに、教職員、生徒一丸となって取組んでいきますので、今後ともよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

本同窓会には、節目節目のときに、大きなご支援を頂き感謝申し上げますとともに、同窓生の皆様の益々のご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。

創立50周年記念事業に御協力を

- 今年は、平成六年度末から取り組んでまいりました本校創立五十周年記念事業を実施する年であります。
- 同窓会長であられる 仁科光悦氏を実行委員長にお願いし、現在着々と準備が進められておりますが、これまで決定しております事柄について会報の紙面をお借りしお知らせいたします。
- (1) 記念式典を十月二十四日(土)に本校体育館で行う。
 - (2) 祝賀会は式典終了後、松風館で開催する。
 - (3) 同窓生の皆さんの思い出や写真を掲載した記念誌を十月初旬に発刊する。
 - (4) 本校の標識塔(看板)を正門付近に設置する。
 - (5) 職員玄関、駐車場、体育館玄関に照明灯を設置する。
 - (6) グランドの土手を整備



- し、観覧席を造成する。
- (7) 本校に功績のある方々を表彰する。
- 以上が主な記念事業の概要であります。そのための費用を約一千二百万円と見込んでおります。
- 現在、募金活動に取り組んでおりますが、その中の約半分を同窓会から御寄付いただくことになりました。同窓会の皆様には出費多端な折、まことに心苦しく存じますが、本事業の趣旨について御理解いただき、募金にご協力を賜りますようお願いよりお願い申し上げます。
- 五十周年記念事業実行委員会 事務局長 高橋惟文

- 「創立五十周年記念誌」を
実費頒布いたします。
- 同窓生にとって、母校の
五十年を顧みるに最高の記
念誌です。
- 一 形式 B5判
一五〇ページ前後
 - 二 価格 一、八〇〇円
 - 三 送料 三一〇円
 - 四 申込方法
郵便番号、電話番号、氏名、住所を記入のうえ、価格と送料の合計額を添えて現金書留で申し込んでください。学校にて受領される場合、送料は不要です。
 - 五 郵送時期
十月下旬〜十一月中旬
 - 六 申込締切
五月三十日(土)締切日以降は増刷できませんのでご注意ください。
 - 七 申込先
〒九九九-1352
山形県西置賜郡小国町大字岩井沢六二一番地
山形県立小国高等学校内
創立五十周年記念事業実行委員会記念誌係宛

恩師回想

水びたしの体育館での新任式

岡部 豊先生



光陰矢の如しと言うか、小国高校を去ってから二十五年が経ってしまった。

私にとっては教師生活の最初の職場が小国高校であり、印象もことさら深いものがあります。赴任したのは昭和三十九年四月九日、当日は不幸にして原因不明の校舎火災の翌日で私共新任者八名は作業着のまま、水びたしの体育館での新任式であった。そして翌日から一週間位は生徒職員が焼け跡の始末で連日が終わることが想起される。またその後、羽越水害、新潟地震にも遭遇し生徒共々、町内の復興に頑張ったこと等

悲喜こもごも頭をよぎるが、楽しかったことより辛かった方が強く残っているのは自然の理である。次に生徒の気質について述べると、赴任当時は高校への進学率が急増期で、一クラス四十五名、クラスによっては五十余名のところもあった。

私の担任であった林業科は二、三男が多く将来自分で自活をしてゆくべき生徒で、将来の目標として、国家、地方公務員をめざし生徒、先生方も使命感に燃え頑張っていたことを思い出します。その結果合格率も県下一のこともあった。まだまだ述べたいこともあるがスペースの関係で終りたいと思います。最後に在職当時御支援、御指導いただいた同僚諸兄に改めて感謝します。



新装興学会館での宿泊学習

平 茂子先生



みなさま、おなつかしうございます。幸せな写真入賀状に目を細め教師冥利とひとりに悦に浸っています。

素直で純朴な生徒の明るい笑顔と清らかな心、関原校長先生のもと教職員の皆様やご父兄の溢れる温情に接することが出来た歓びの四年の在勤中、感動と感謝の想出が山積みしています。

優しい眼差しは今周一郎町長さんにお会いした時、「冬の特に厳しいのは80日。その後は待つ間もなく春が訪れる。」とのお言葉はまさにお諭しの一語とこれからも大切にしていきたいです。地元セラミックス岡田實工場長さんのご講話を学年で拝聴した折、生徒の態度に感動なされご寄贈いただいた「広辞苑」を今も大いに活用されています。また、同窓会興学会館開設充実した中で待望の第一回宿泊学習の実施。寝食を共に友情の絆を強めたものでした。部活のお茶会等も楽しかったです。

五九年豪雪には一人暮らし老人宅の必死の雪堀奉仕。喜ぶ年寄りの姿が臉に焼きついていきます。福祉活動の草分けでまさに白眉でした。おわりに山紫水明の地で育まれた忍耐力と感性とで活躍のみなさまのご健勝を心からお祈り申し上げます。



会員からのたより

三年間続けた陸上競技

昭和五十一年卒 長 井 弘 美



同窓会より原稿の依頼がきた時、卒業してから何年経ったのかな、と思ひ数えてみたら、早いもので、もう二十一年も経っていました。私の高校時代の思い出は、3年間続けた陸上競技の事です。ご存じの通り小国町は、県内でも有数の豪雪地帯で、半年間はグラウンドを使えません。現在の様に室内練習場などはもちろんなく、練習場所や練習方法など、色々と苦労しました。その一つに、スパイクを履いた練習がしたくて、色々考えた末、除雪車の通

た跡に出来るアイスバーンの上に、ハードルを並べて飛んだり、また、春先からはグラウンドの雪消しと、筋力アップを兼ねて部員全員で、グラウンドに幾つもの雪の穴を掘ったりして雪国ならではの練習をしたものでした。その甲斐あってか、3年生の時の東北大会には、8名も出場する事が出来、個人的にはインターハイ、国体に出場し、全国入賞もする事が出来ました。顧問の馬場先生や良き先輩、後輩、同期にも恵まれ、伝統ある陸上部で活躍出来た事を、今でも誇りに思っています。創立五十周年を迎え、小国高校が益々活躍する事を期待します。



“仙台・松島”へ修学旅行

昭和四十九年卒 横 山 澄 絵



「小学校五年になる娘が先日、修学旅行で仙台・松島へ行ってきました。」久し振りに友人に葉書を送ったら、早速「何だか昔の事をいろいろと思い出しました。私たちも修学旅行がしたいね。」との返事。

その半年後、本当に私たちは仙台・松島へ修学旅行に行つたのです。

そこは、私たちが小学六年の時の修学旅行先です。

四十路の女三人、電車に揺られ、五大堂で記念撮影し、揚げたてのおとうふ蒲鉾(今やこれがトレンド!)に舌鼓。遊覧船で松島湾を巡り、夜の仙台を徘徊し、博物館での特別展を観賞し

た帰りには、桜ヶ丘公園の銀杏をしっかり拾ってきてしまおうというオマケ付き。保育園・小・中・高と、実に長い年月を共有した私たちは、一人の一言から次々と記憶の片々が蘇り、射干玉の闇の中でほのかな灯火に導かれるが如く、「そうよ、そうだったわ、それからね」と、時を忘れて話し込んだ。ハイティーンの少女になって。

その後、この旅行に気を良くした私たちは第二段を計画中である。旅先は温泉地。やはり四十路のおばさんである。



“羽越水害” あれから30年

昭和四十三年卒 横山 季幸



あの日の朝私は雨の音に起こされた。

いったいこの雨はいつまで降り続けるのだろうか。

そんな思いの中で時を過ごしていた矢先であつた。

「季幸／＼玄関から水が入ってきたぞ！」私は母の声に外に飛び出した。

家の前の側溝からはみるみる雨水があふれ、そのままの勢いで家の中をあっと言う間に水浸しにしてしまった。隣の家から大声で、「としゆき君！」「助けて！」とおばさんの悲鳴が聞こえた。父と二人でおばさんの家財を一階から二階にひき上げた時夜半を過ぎていた。それからようやく水に浮き始めた自分の家の家財を二

階に上げ終えたのは真夜中であつた。

家族でローソクの灯りで夕食？の冷ごはんは鯖缶の汁をぶっかけて食べた。異様なおいしさであの味は脳裏にいまでも鮮明に残っている。なぜか特別なごちそうをいただいた気がした。一睡も出来ずに時折懐中電灯で二階から外を照らすのが水は増すばかりであつた。翌朝学校に行ったが家の手伝い休校になった。

その後小国小学校の中庭が泥で埋まっているので皆でボランティアに行ってくれとの担任の指示で何日か手伝いに行ったがいつ終わるのか目途がつかない様な作業であつた。子供達は無邪気に遊んでいるその屈託のない笑顔が救いであり、まぶしかった。あの子供達も今では人の親となりこの地に暮らしている。何事もなかったかの様に。



支部紹介

南部支部

支部長 佐藤 祐一

S31卒



わが母校も平成十年度に創立五十周年を迎える。

私も昭和二十八年定時制農業科に入学し四年間在学した。

当時の南部は南小国村立南小国中学校でありその後南部中学校となり、小玉川・足水中里の分教場が独立し本校となり現在足中は生徒数減少の為存置できなくなり南部中が玉川中学校に改名し小玉川中学校と二校となった

ふり返って私たちの頃の高校進学率は二割位でした。自転車もなく百子沢峠の残雪をふみしめて二時間位

歩いて通学した当時が今なつかしく思い出される。

当時の地域の願望は高校全員入学だった。自分で働かなければ学ぶことが出来なかった当時の悲願でもあった。その後経済復興と共に進学率も徐徐に上がり現在では高校全人となっている。これも昭和二十三年に小国高校が創設されたからであり、おかげで本町の多くの子弟が高等教育の恩恵に授かり町内外で活躍することが出来る訳で今後、少子化の中でも進学も含めた中高一貫教育も視野に入れて、創立五十周年を足がかりに母校発展を願いつつ、南部支部も「記念行事成功」を合いことばに頑張ります。



平成九年度総会行なわれる

平成九年度総会が十月二十四日午後六時〇〇分より

小国温泉「松風館」に於いて、八十余名の参加をいただき開催されました。なかでも五十周年記念事業の同窓会の持ち出し部分、基金の使用の件、平成十年度の総会の持ち方について、様々な意見が出されました。結論については、後日の役員会で出される事となりました。

その後、懇親会に移りなつかしいクラスメート、旧友との再会、親友との楽しい語らいで一時を過ごすことが出来ました。

又、今回始めて本校卒業生で結成しているフォークバンド「朝飯連峰」「アサメシバンド」S54年卒伊藤薫氏代表他七名による演奏会が行なわれ、大変楽しい一夜を過ごすことが出来ました。このように年一回開催される総会の機会に沢山の方

々の参加をお待ちしております。



事務局だより

平成十年度総会の持ち方について総会の席上論議されましたが、三役、事務局会で検討した結果、平成十年度については五十周年事業の成功に向けた運営並びに開催の関係で総会を持つ事は時間的に大変であるという事で、総会は行ないませんのでご承知おき下さいますようお願い致します。

平成8年度 同窓会会計決算書

収入の部

(単位：円)

科 目	予算現額	収入済額	増 減	摘 要
会 費	1,500,000	1,195,160	△304,840	1,217名分
入 会 金	285,000	280,000	△ 5,000	@5,000×56名
繰 越 金	337,111	337,111	0	前年度繰越金
雑 収 入	889	39,314	38,425	預金利子等
合 計	2,123,000	1,851,585	△271,415	

平成9年度 同窓会会計予算書

収入の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	摘 要
会 費	1,500,000	年会費 @1,000円×1,500名
入 会 金	335,000	卒業生入会金 @5,000円×67名
繰 越 金	340,951	前年度繰越金
雑 収 入	1,049	預金利子等
合 計	2,177,000	

支出の部

(単位：円)

科 目	予算現額	支出済額	残 高	摘 要
需 要 費	50,000	30,184	19,816	用紙・卒業アルバム等
会 議 費	170,000	165,893	4,107	各種役員会諸経費等
通 信 費	220,000	181,616	38,384	ハガキ・切手・電話
印 刷 費	160,000	152,041	7,959	会報・その他
使用料賃借料	10,000	0	10,000	
事務室維持費	50,000	0	50,000	同窓会事務室維持諸経費
慶 弔 費	50,000	10,000	40,000	弔電・餞別
教育助成金	100,000	45,900	54,100	卒業記念品・講演謝礼等
支部助成	110,000	110,000	0	町内地区11支部
特別事業基金	1,100,000	750,000	350,000	
事 務 費	50,000	50,000	0	事務局
予 備 費	53,000	15,000	38,000	
合 計	2,123,000	1,510,634	612,366	

支出の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	摘 要
需 要 費	50,000	用紙・卒業アルバム等
会 議 費	200,000	各種役員会諸経費
通 信 費	250,000	ハガキ・切手・電話代等
印 刷 費	200,000	会報・その他
使用料賃借料	10,000	
事務室維持費	10,000	同窓会事務室維持諸経費
慶 弔 費	60,000	弔電・餞別等
教育助成金	100,000	卒業記念品・講演謝礼等
支部助成	100,000	町内地区11支部
特別事業基金	1,000,000	
事 務 費	50,000	事務局
予 備 費	147,000	
合 計	2,177,000	

野球部

小国高校野球部は少ない人数ですが先輩・後輩の仲が非常に良く、明るさと面白さが自慢できる部です。

そんな野球部の今年度の甲子園予選の戦績は、

小国高校対金山高校

13対3 二回戦へ

二回戦

小国高校対庄内総合

10対11

です。今まで勝てなかった相手に勝つことができた試合、大差をつけられ悔しい思いをした試合と様々でし



た。

今年度の試合を振り返ると、実力的には差のない相手に負ける事が多かった様に思います。今、その反省を踏まえ、悔しさをバネに春の大会に向けて、届かぬ夢かもしれないけど『甲子園出場』という高い目標をもち、ウエイトトレーニング、サーキットトレーニング等の体力づくりを中心にそして、強い精神を養うため、毎日の練習を頑張り、この冬を乗り越えていきたいです。

陸上部

陸上競技部は過去に上位大会で数多くの実績をあげ

ている、小国高校を代表する部の一つです。しかし、

部活動離れ（特に運動部）

の時代の流れの中で、以前ほど部員数は多くはなく

なかなか上位大会で結果を出せないのが現状です。と

はいえ、多数の生徒が部活動を通して多くの貴重な財

産を築き上げ卒業していく姿に変わりはありません。

厳しい練習に対する忍耐力、記録に対する向上心、集団

の中の強調性、スポーツマンとしてのマナーなど数

えあげたらさきがありませ

ん。大会で味わう感動や悔しさ、部活動を通して作ら

れる仲間との友情などを、イマドキの冷めた生徒たち

に味わわせてあげたいとい

うのが本音です。来年度も県指定強化選手のキャプテン五島友宏くん（走り高跳び）を中心に、顧問二名、

コーチ数名の指導のもと、結果だけを求めず、毎日の練習の過程の中で多くの事を学ばせていきたいと思

平成九年度進路状況

今年度の3年生の就職と進学

の比率は、およそ7対3で、例年に比較すると就

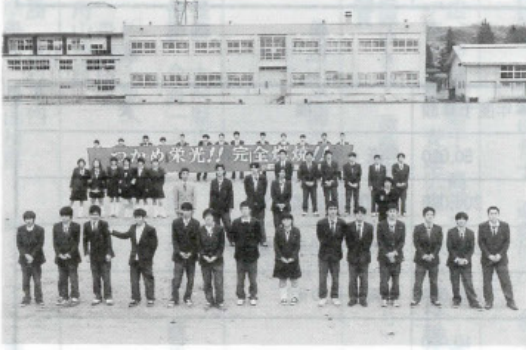
職の割合が増加しました。

就職希望者は、9月16日以降の就職試験で順調に内

定を獲得して、12月末には内定率が100%になりました。

今年度は、女子の就職希望者が前年度より増加して、

結果的には県外就職者が倍



増しました。女子生徒が希望する販売・サービス等の求人

が、その要因の一つと思われます。

進学に関しては、年度当初の希望をほぼ全員が達成

しました。平日講習や、夏期の学習合宿等をよく生か

して、努力した成果だと思

います。大学・短大では、今年度から指定校推薦の該

当校になることができたところがあり、2名が指定校

推薦入試で合格しました。

◎編集後記◎

陽は昇り、陽は沈み、出

会いはあり、別れがあり、

母校は今年創立五十周年を迎える。それぞれの人がそ

れぞれの時に思いを馳せているのではないだろうか。

会報も第九号となり少しでも故里の匂いをお届けできればと心がけてみました。会員の皆様の健康とご活躍を願いつつ。（神保 記）

◆編集委員

渡辺英雄 神保たえ子

駒沢堅一